

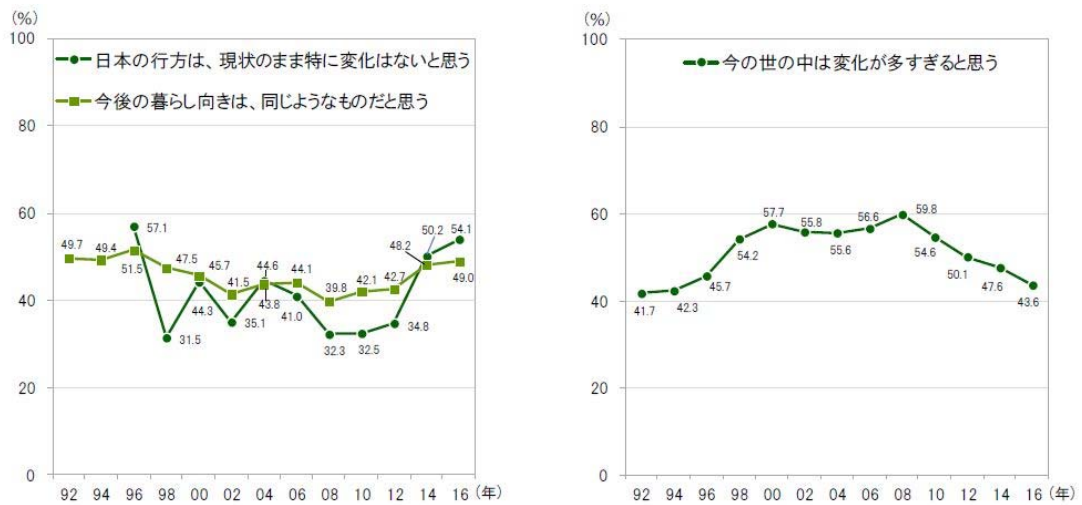
参考資料

1. 生活者の意識・価値観

(1) 全国的な生活者の意識の傾向

○「この先よくも悪くもならない世の中へ」

・2010年前後から生活者に「この先良くも悪くもならない」という認識が広がっている。生活者は社会や時代に必要以上に熱く怒りを感じることも、悲観して冷え込むこともなく、現状を受け止め身の周りに幸せを感じている。

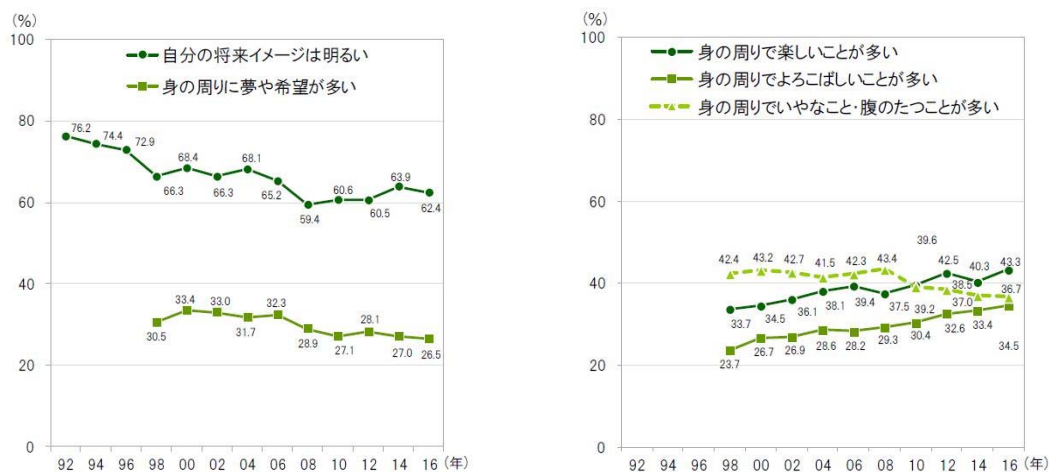


出典:「生活定点」調査/博報堂生活総合研究所(平成28年10月)

図-1 生活者の時代認識

○「身の周りに多いのは嫌なことより楽しいこと」

・「自分の将来イメージは明るい」が2010年以降横ばいとなり生活者に将来展望を持ちにくい状況にある一方で、「身の周りで楽しいことが多い」は増加、「身の周りでいやなこと・腹のたったことが多い」は減少し、自分自身の身の周りで幸せを感じる力が高まっている。

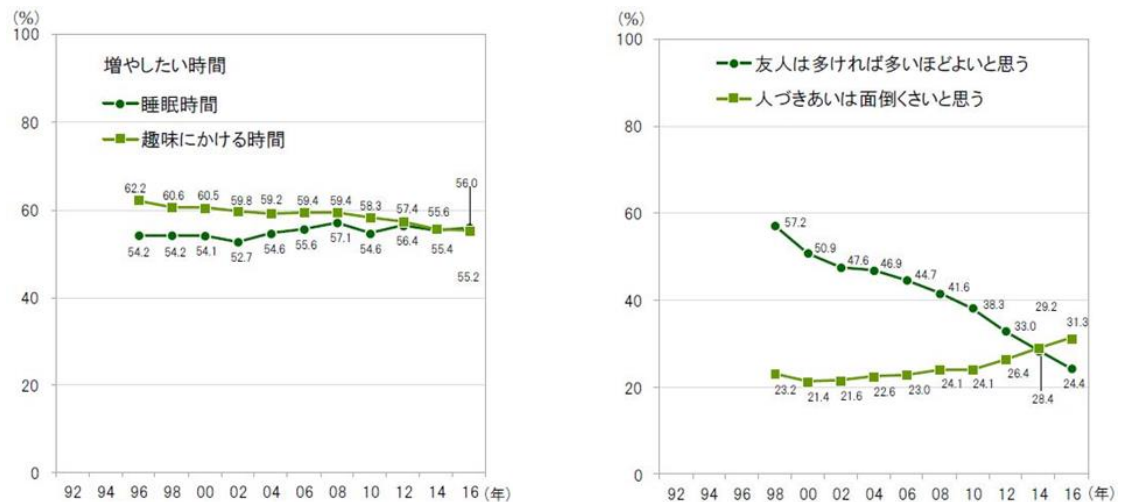


出典:「生活定点」調査/博報堂生活総合研究所(平成28年10月)

図-2 生活者意識の変化

○「増やしたい時間は、趣味より睡眠」、「友達疲れが鮮明に」

- ・増やしたい時間として、「睡眠時間」が「趣味にかける時間」を2016年にはじめて上回っている。
- ・「友人は多ければ多いほどよいと思う」が減少の一途をたどり、一方で「人付き合いは面倒くさいと思う」が増加傾向を示し、「友達疲れ」の意識が高まってきている。

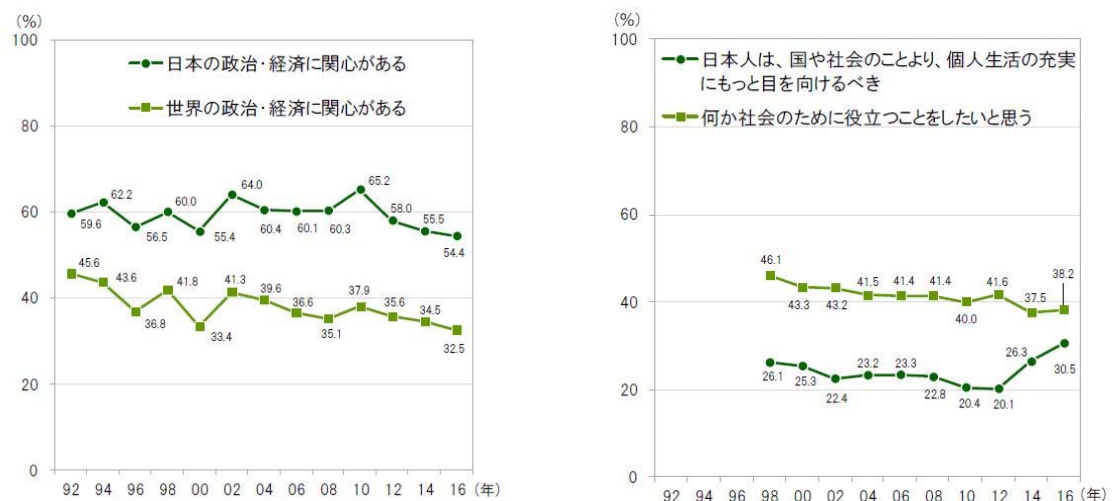


出典:「生活定点」調査/博報堂生活総合研究所(平成28年10月)

図-3 趣味・人付き合いの変化

○社会より個人生活の幸せをまず確保

- ・国内外の政治・経済への関心が低下する一方で、「日本人は、国や社会のことより、個人生活の充実にもっと目を向けるべき」が増加に転じ、生活者の関心は公から私にシフトしている。

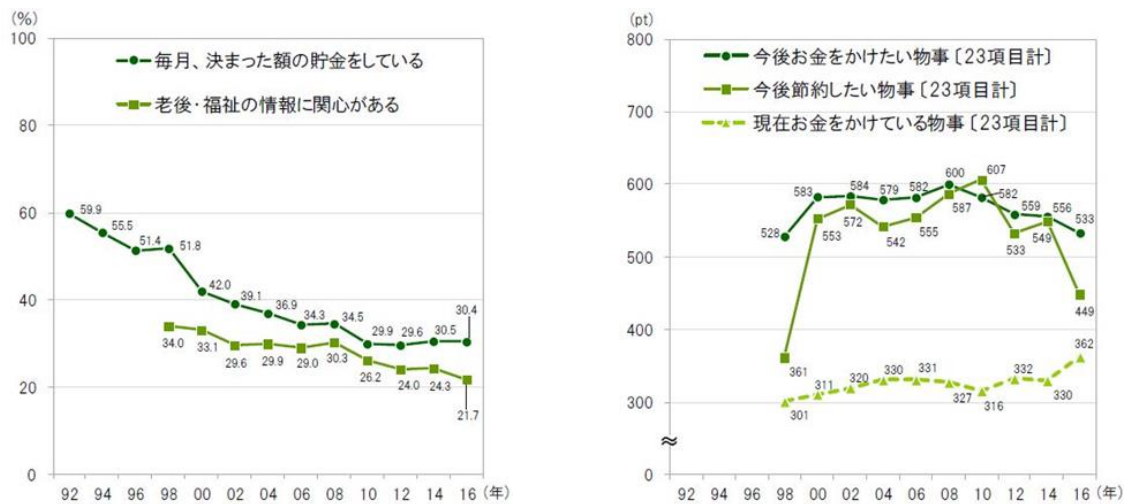


出典:「生活定点」調査/博報堂生活総合研究所(平成28年10月)

図-4 生活態度の特徴(公より私)

○今の充実を大切にする

- ・貯金、老後・福祉、節約への関心が低下し、「現在お金を使っている物事」が上昇している。
- ・お金を使う意識が将来より今にフォーカスされ現在の生活を重視する傾向が顕在化している。

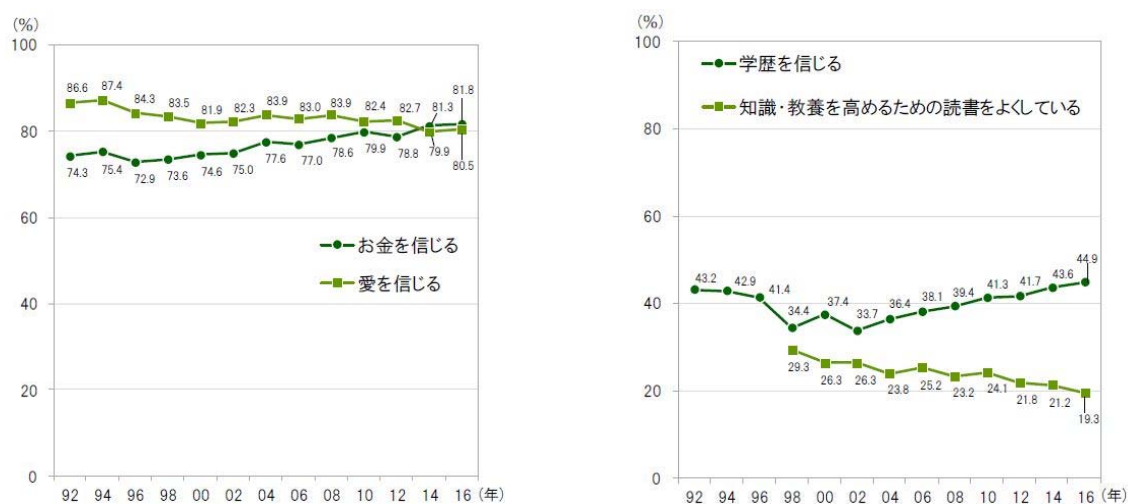


出典:「生活定点」調査/博報堂生活総合研究所(平成 28 年 10 月)

図-5 生活態度の特徴(先より今)

○愛よりお金。確実に役立つものを重視

- ・高い水準にあった「愛」は微減傾向にある一方で「お金」は上昇している。また、「学歴」を信じる人が増え「読書をよくしている」人が減り、漠然とした「期待」より確実に役に立つ「現実」が求められている。

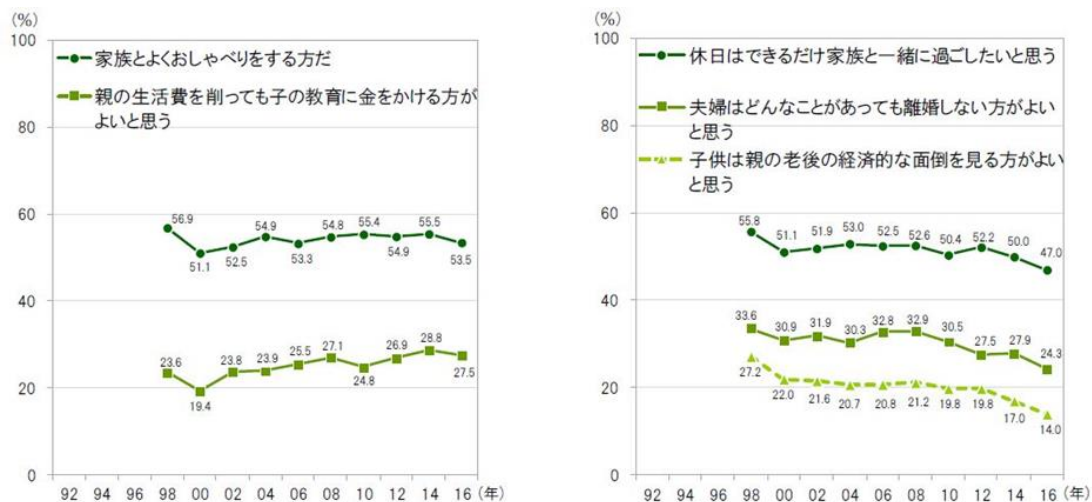


出典:「生活定点」調査/博報堂生活総合研究所(平成 28 年 10 月)

図-6 生活態度の特徴(期待より現実)

○依存しないことで、お互いの幸せを確保

・「家族の会話」「子の教育費」に対する意識は一定の水準を保っている一方で、「休日は家族と過ごしたい」は低下傾向にあり、家族関係は不仲でなくても、お互いに自立した関係に向かっている。



出典:「生活定点」調査/博報堂生活総合研究所(平成 28 年 10 月)

図-7 生活態度の特徴(依存より自立)

○お金をかけていること、かけたいこと

- ・現在かけているお金は「普段の食事」が20年前から変わらずに最高値を維持している。一方で、「外食」にかけるお金が徐々に高まり2016年に2位となった
- ・今後お金をかけたいことは、「旅行」から「貯金」となった。

表-1 現在お金をかけていること

	1996	2006	new 2016
1	ふだんの食事 [33.7%]	ふだんの食事 [27.5%]	ふだんの食事 [31.3%]
2	交際（飲食を含む） [25.5%]	趣味 [23.6%]	外食 [28.7%]
3	旅行 [22.1%]	外食 [23.2%]	趣味 [26.8%]
4	車 [20.8%]	お金をかけているものはない [21.3%]	通信（電話、携帯電話、インターネットなど） [24.4%]
5	外食 [19.8%]	通信（電話、携帯電話、インターネットなど） [21.0%]	子供のための教養・勉強 [23.1%]
6	お中元・お歳暮 [16.3%]	子供のための教養・勉強 [19.7%]	旅行 [22.0%]
7	外出着 [15.0%]	旅行 [19.5%]	交際（飲食を含む） [20.8%]
8	冠婚葬祭 [15.0%]	交際（飲食を含む） [18.9%]	貯金 [17.5%]
9	健康診断・予防を含めて医療 [14.1%]	貯金 [15.7%]	美容（散髪、エステなどを含む） [17.2%]
10	貯金 [13.2%]	車 [15.5%]	外出着 [16.4%]

出典：「生活定点」調査/博報堂生活総合研究所(平成28年10月)

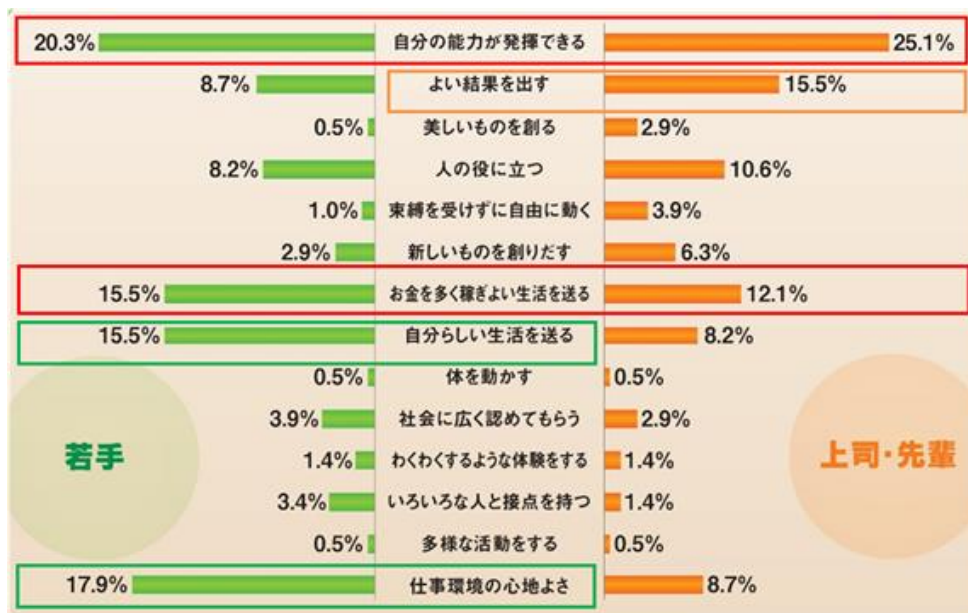
表-2 今後お金をかけたいこと

	1996	2006	new 2016
1	旅行 [57.0%]	貯金 [54.2%]	貯金 [53.9%]
2	貯金 [51.2%]	旅行 [48.9%]	旅行 [45.5%]
3	外出着 [25.7%]	趣味 [40.2%]	老後の暮らしの準備 [39.4%]
4	健康診断・予防を含めて医療 [25.7%]	子供のための教養・勉強 [32.3%]	趣味 [37.5%]
5	ふだんの食事 [21.1%]	自分のための教養・勉強 [30.9%]	子供のための教養・勉強 [30.4%]
6	車 [20.9%]	健康・リラックス [30.5%]	レジャー（旅行を除く） [29.4%]
7	ふだん着 [18.7%]	レジャー（旅行を除く） [30.2%]	健康診断・予防を含めて医療 [28.1%]
8	家電品 [17.9%]	健康診断・予防を含めて医療 [30.0%]	健康・リラックス [27.7%]
9	交際（飲食を含む） [17.2%]	外出着 [27.7%]	自分のための教養・勉強 [25.6%]
10	外食 [16.0%]	家電品 [24.3%]	外出着 [24.1%]

出典：「生活定点」調査/博報堂生活総合研究所(平成28年10月)

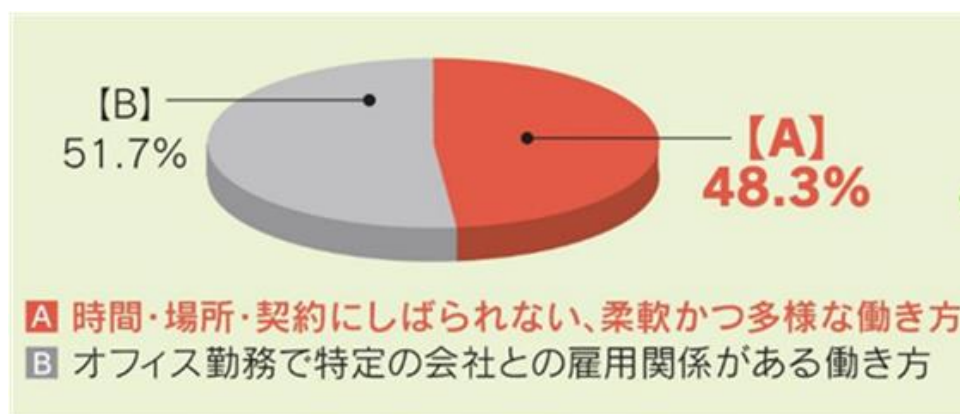
○若者の働き方について ～若手は仕事環境の心地よさ重視～

- ・仕事に求めている条件について、若手（2016年～2017年入社）、上司・先輩は双方ともに「自分の能力が発揮できる」「お金を多く稼ぎよい生活」を送るが高い割合を示している。一方で、若手は「仕事環境の心地よさ」「自分らしい生活を送る」が高い割合を占めている。
- ・若手のうち、約半数の人は「時間、場所、契約にしばられない柔軟かつ多様な働き方」を好んでいる。



出典: イマドキ若手社員の仕事に対する意識調査 2017/日本能率協会マネジメントセンター(平成 29 年 7 月)

図-8 一番仕事に求めている条件

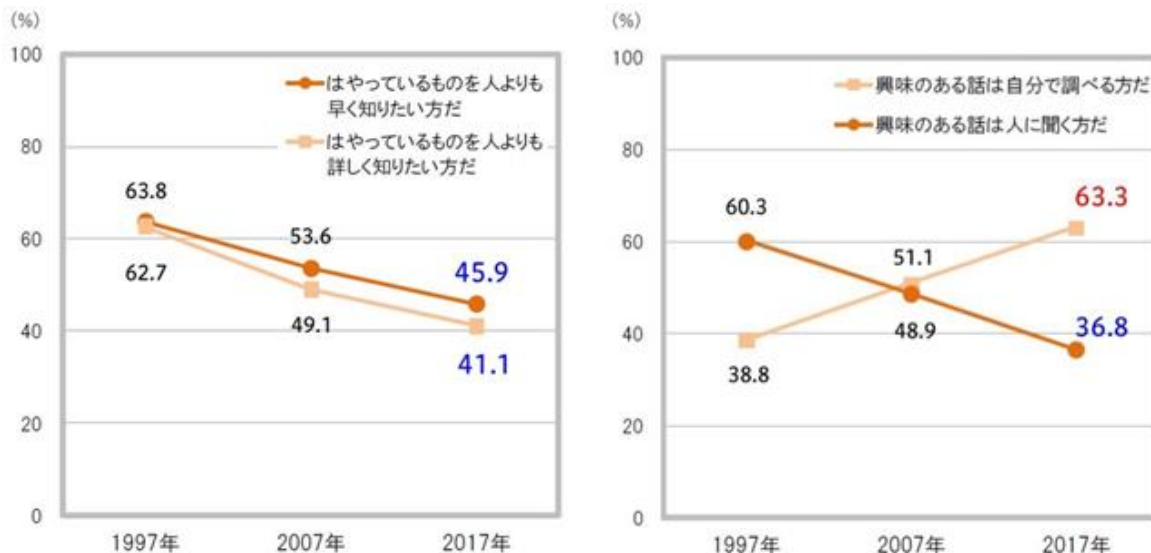


出典: イマドキ若手社員の仕事に対する意識調査 2017/日本能率協会マネジメントセンター(平成 29 年 7 月)

図-9 若手の好みの働き方について

○子どもたちの変化

・子どもたちの関心ごとについて、「はやっているものを人よりも早く知りたい方」は過去最低となり、「興味のある話」は「自分で調べる方」が過去最高となった。流行への興味は低く、気になることは自分で調べる子が増えている。また、欲しいものはスマートフォンとなった。



出典:「こども 20 年変化」調査/博報堂生活総合研究所(平成 29 年 7 月)

図-10 子どもたちの関心ごと



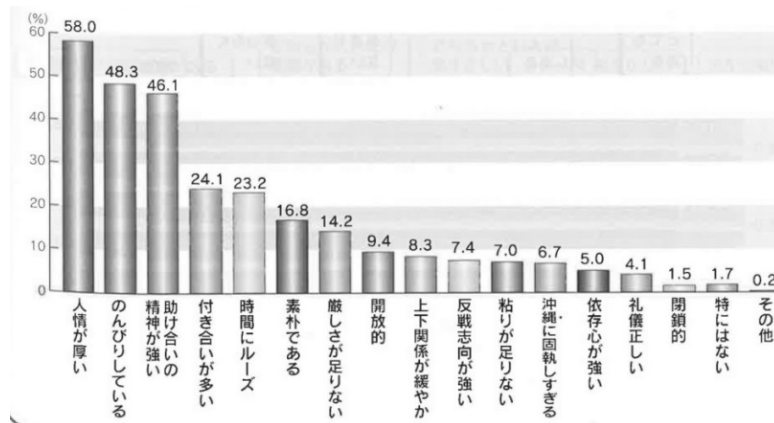
出典:「こども 20 年変化」調査/博報堂生活総合研究所(平成 29 年 7 月)

図-11 子どもたちのメディア意識

(2) 沖縄県の生活者の意識の傾向

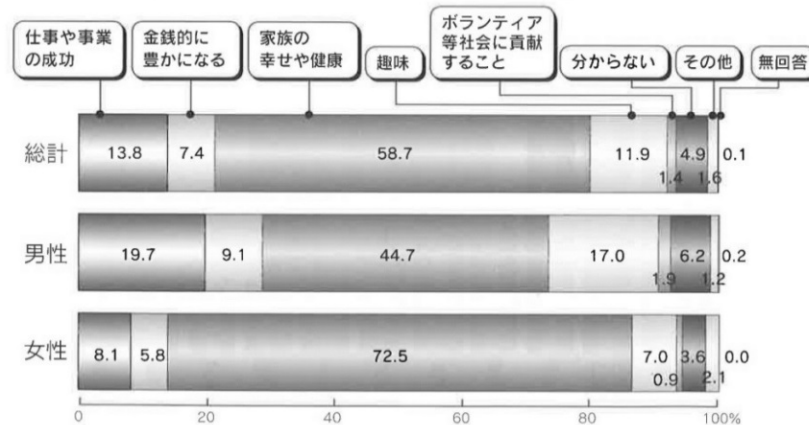
○沖縄県民の特性

・「人情が厚い」沖縄県民は「家族の幸せや健康」を生きがいとしている人が多い。将来の社会は経済的豊かさに次いで「子どもや老人、障がい者を大切にする社会」が求められ、社会的弱者を思いやる意識が高い。



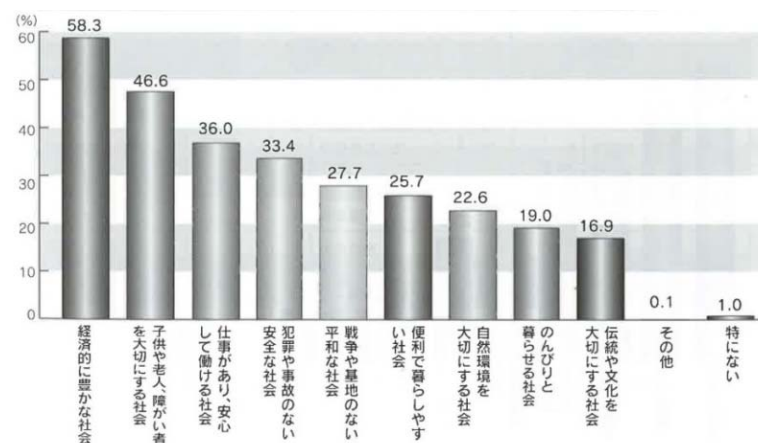
出典: 沖縄県民意識調査報告書 2016/琉球新報社(平成 29 年 4 月)

図-12 沖縄県民の特性について



出典: 沖縄県民意識調査報告書 2016/琉球新報社(平成 29 年 4 月)

図-13 生きがいとしてきたこと

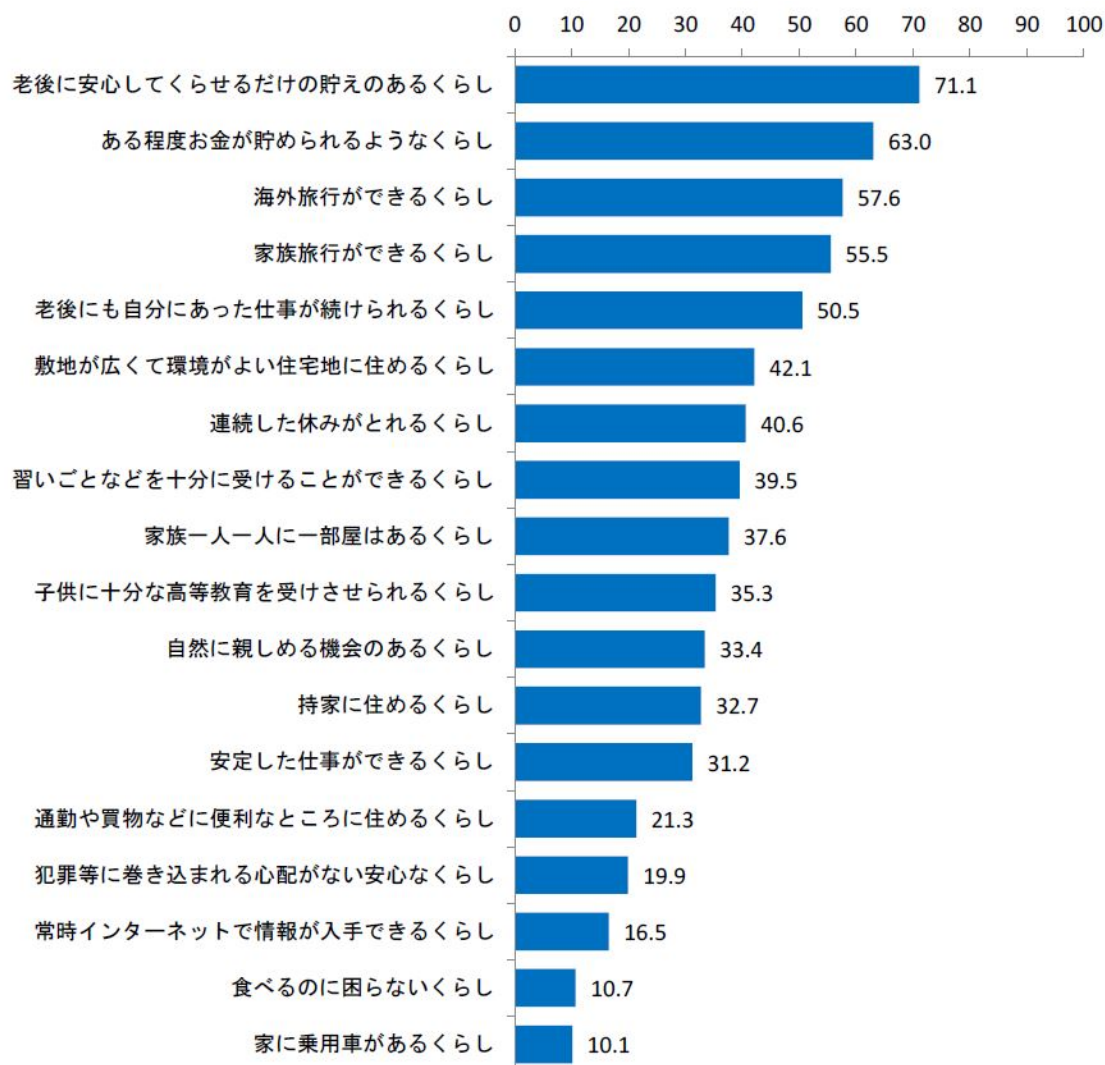


出典: 沖縄県民意識調査報告書 2016/琉球新報社(平成 29 年 4 月)

図-14 将来どんな社会になってほしいか

○沖縄県民の求める暮らし方

- ・「老後に安心してくらすだけの貯えのある暮らし」「老後にも自分にあった仕事が続けられる暮らし」が強く求められている。
- ・4割の人が「敷地が広くて環境がよい住宅地に住める暮らし」を、3割の人が「自然に親しめる機会のある暮らし」を求めている。

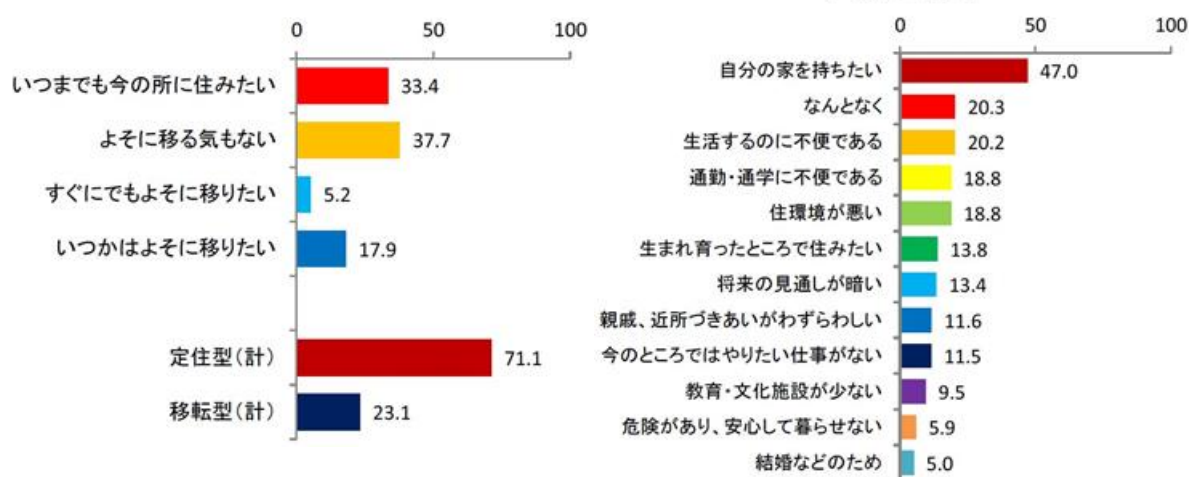


出典: 第9回県民意識調査/沖縄県(平成 29 年 4 月)

図-15 生活状態の希望

○沖縄県民の定住と移住の考え方

- ・7割以上の人々が「いつまでも今のところに住みたい」「よそに移る気もない」定住を希望している。
- ・「よそに移りたい」人は「自分の家を持ちたい」理由で県内のよその市町村に移転したい人が多く、全体的に沖縄県内の定住が望まれている。

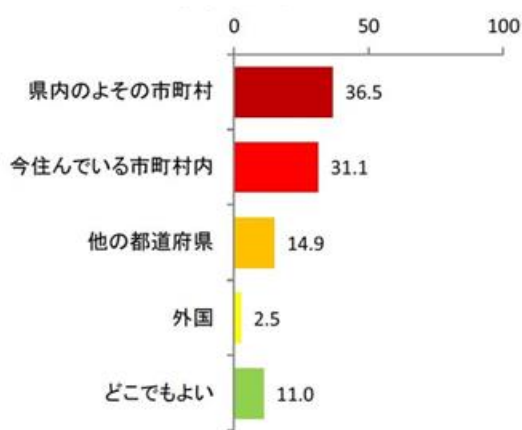


出典: 第9回県民意識調査/沖縄県(平成29年4月)

出典: 第9回県民意識調査/沖縄県(平成29年4月)

図-16 居住の希望

図-17 移転希望理由

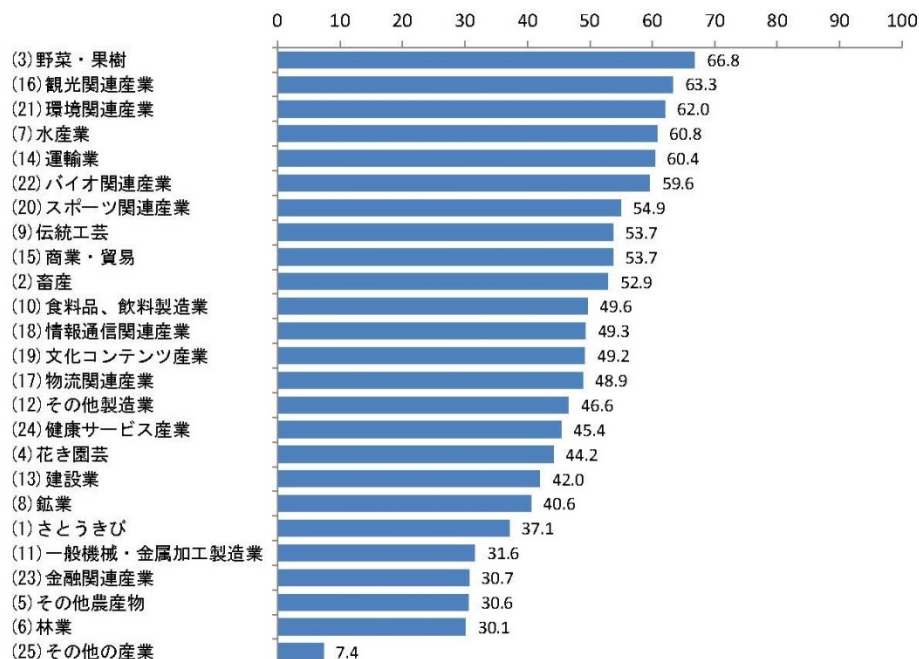


出典: 第9回県民意識調査/沖縄県(平成29年4月)

図-18 移転希望先

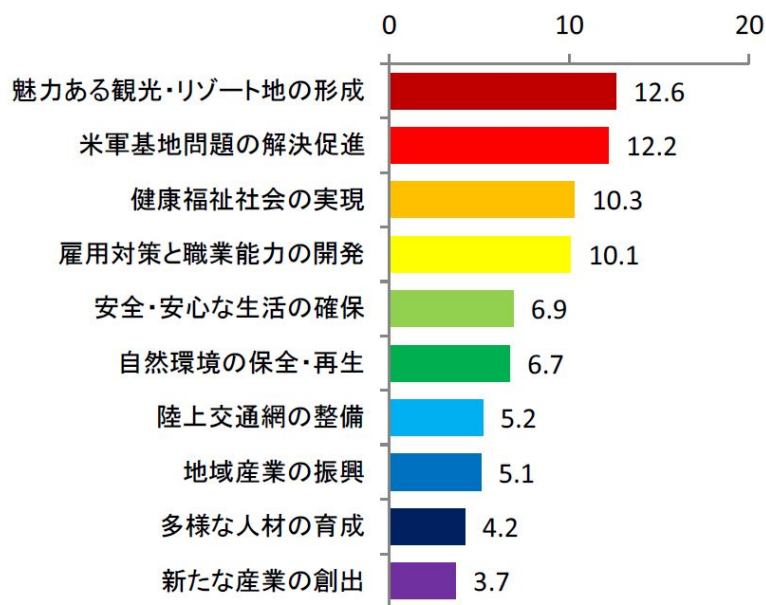
○優先すべき産業についての県民意識

- ・沖縄県の振興のために力を入れるべき産業として「野菜・果樹」「観光関連産業」「環境関連産業」が高い意向を示している。
- ・重点的に取り組むべき施策として「魅力ある観光・リゾート地の形成」と考える人が最も多い。



出典: 第9回県民意識調査/沖縄県(平成29年4月)

図-19 産業の優先度

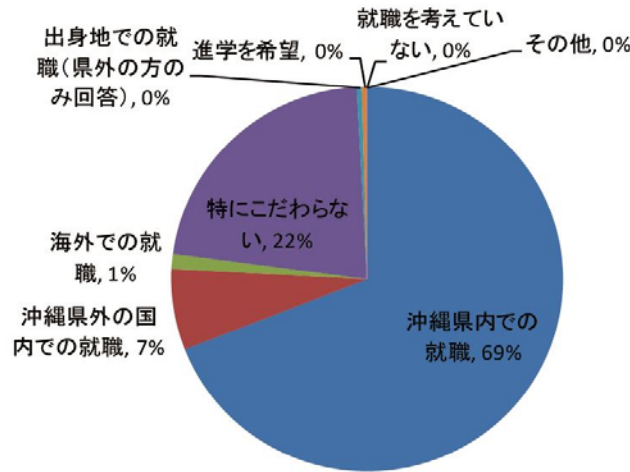


出典: 第9回県民意識調査/沖縄県(平成29年4月)

図-20 重点施策の優先度

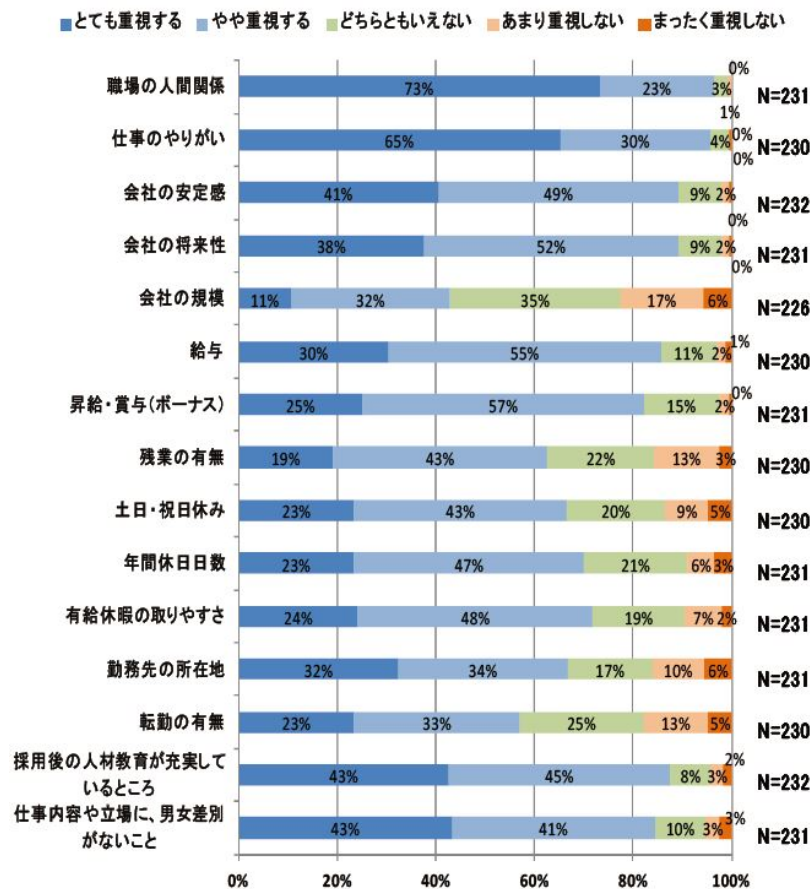
○沖縄県内大学生の就職意向

- ・県内大学生の就職意向について、約7割の学生が「沖縄県内での就職」を希望している。
- ・また、沖縄県内大学生は就職先を選ぶ際に「職場の人間関係」「仕事のやりがい」「安定性や将来性」を重視して選んでいる。



出典: 沖縄県内の大学生に対する意識等調査について/沖縄総合事務局(平成27年5月)

図-21 勤務地の希望

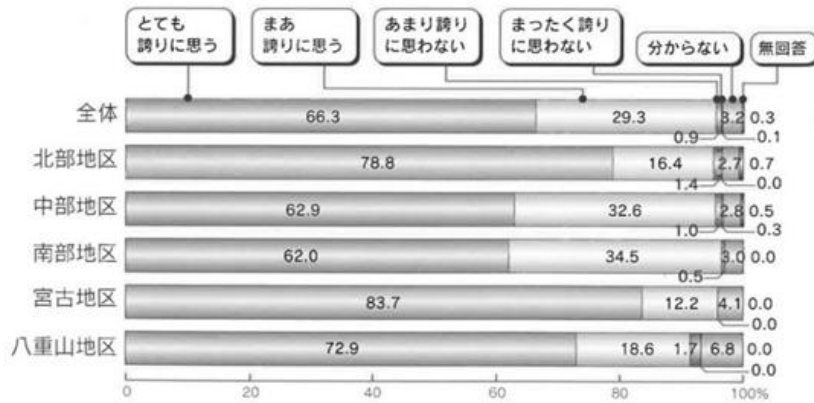


出典: 沖縄県内の大学生に対する意識等調査について/沖縄総合事務局(平成27年5月)

図-22 就職先を選ぶ際に重視すること

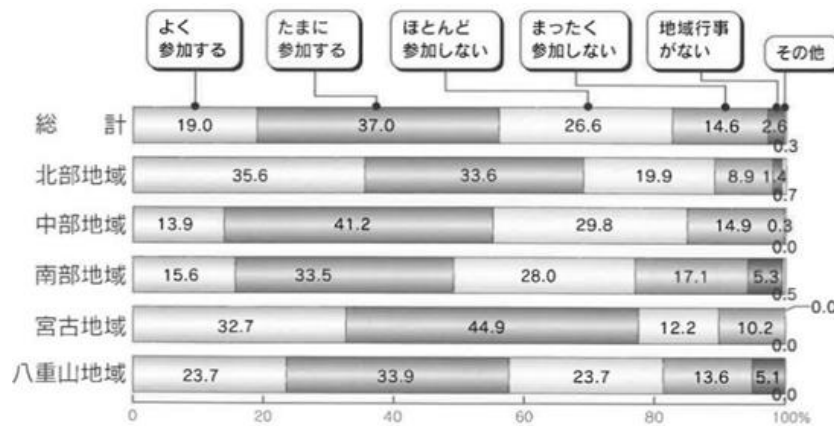
○伝統芸能、文化の考え方

- ・地域に関わらず9割以上の沖縄県民は沖縄の文化・芸能を誇りに感じ、約半数の人が地域の行事や祭りに参加している。
- ・好きな沖縄文化では身近に接する機会が多いエイサー、三線の人気が高い。



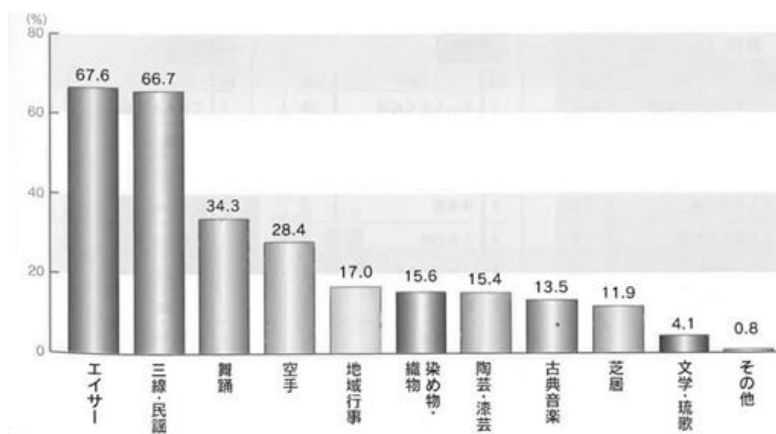
出典: 沖縄県民意識調査報告書 2016/琉球新報社(平成 29 年 4 月)

図-23 沖縄の文化・芸能を誇りに思うか



出典: 沖縄県民意識調査報告書 2016/琉球新報社(平成 29 年 4 月)

図-24 地域の行事・祭りへの参加



出典: 沖縄県民意識調査報告書 2016/琉球新報社(平成 29 年 4 月)

図-25 好きな沖縄文化について

(3) 沖縄県への移住者が求める暮らし

○移住先に求める環境

・沖縄県への移住希望者は「自然が豊かである」「食べ物、水、空気が美味しい」環境を特に求めている。

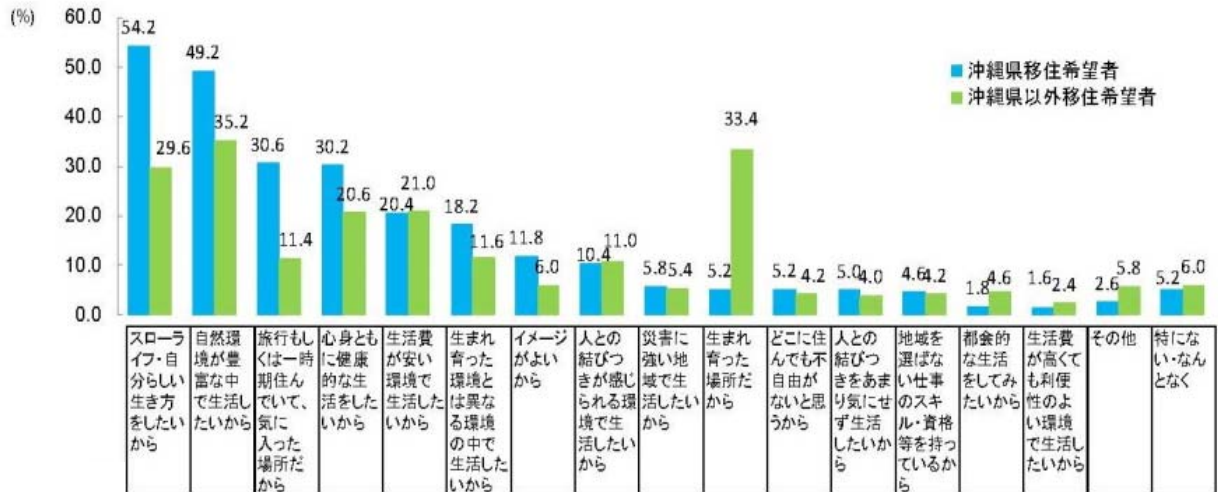


出典: 沖縄県への移住意向に関する調査/沖縄振興開発金融金庫(平成 29 年 3 月)

図-26 移住先に求める環境

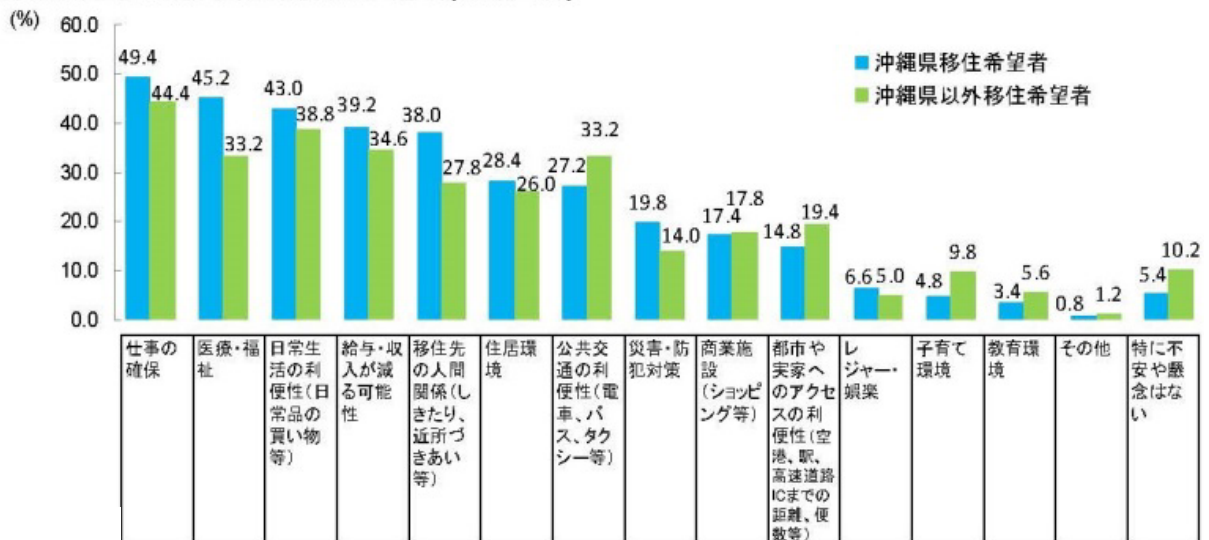
○移住先で求めるライフスタイル

- ・沖縄県への移住希望者は「スローライフ・自分らしい生き方をしたい」「自然環境が豊かな中で生活をしたい」「心身ともに健康的な生活をしたい」人が多くロハスなライフスタイルを求めている。
- ・一方で、移住先の「仕事の確保」「医療・福祉」「日常生活の利便性」が懸念され、雇用の場、医療機関、生活利便施設等が必要とされている。



出典: 沖縄県への移住意向に関する調査/沖縄振興開発金融金庫(平成 29 年 3 月)

図-27 移住したい理由



出典: 沖縄県への移住意向に関する調査/沖縄振興開発金融金庫(平成 29 年 3 月)

図-28 移住を考える上での不安や懸念

○希望の移住パターン

・移住希望者のうち、沖縄県以外への移住者は「Uターン」が最も多いのに対し、沖縄県への移住希望者は、「Iターン」「2地域居住」の意向が高い。

表-3 希望の移住パターン

		TOTAL	Uターン	Jターン	Iターン	2地域居住
沖縄移住希望者		500	39	76	239	146
		100.0	7.8	15.2	47.8	29.2
沖縄県以外移住希望者		500	194	100	129	77
		100.0	38.8	20.0	25.8	15.4

		TOTAL	Uターン	Jターン	Iターン	2地域居住
沖縄県内移住希望者	男性	250	20	33	122	75
		100.0	8.0	13.2	48.8	30.0
	女性	250	19	43	117	71
		100.0	7.6	17.2	46.8	28.4
	20代	48	6	12	23	7
		100.0	12.5	25.0	47.9	14.6
	30代	115	11	24	65	15
	100.0	9.6	20.9	56.5	13.0	
40代	116	7	17	55	37	
	100.0	6.0	14.7	47.4	31.9	
50代	116	8	13	56	39	
	100.0	6.9	11.2	48.3	33.6	
60代	105	7	10	40	48	
	100.0	6.7	9.5	38.1	45.7	

		TOTAL	Uターン	Jターン	Iターン	2地域居住
沖縄県外移住希望者	男性	250	92	37	71	50
		100.0	36.8	14.8	28.4	20.0
	女性	250	102	63	58	27
		100.0	40.8	25.2	23.2	10.8
	20代	100	37	32	25	6
		100.0	37.0	32.0	25.0	6.0
	30代	100	48	21	24	7
	100.0	48.0	21.0	24.0	7.0	
40代	100	40	17	15	28	
	100.0	40.0	17.0	15.0	28.0	
50代	100	39	16	34	11	
	100.0	39.0	16.0	34.0	11.0	
60代	100	30	14	31	25	
	100.0	30.0	14.0	31.0	25.0	

出典: 沖縄県への移住意向に関する調査/沖縄振興開発金融金庫(平成 29 年 3 月)

○移住先での働き方

・沖縄県への移住希望者のうち約5割は「移住先でも働きたい」が、約4割は「趣味や余暇を重視したいのでたまに働く程度にしたい」「リタイア後の生活を楽しむ等で働くつもりはない」などで就業意向はない。「移住先で働きたい」人は「正社員」「パート・アルバイト」として雇用されたい人が多い一方で、「自営業」も高い意向を示している。

表-4 移住先での就業意向

1段目 度数 2段目 横%	TOTAL	どこに住んでも仕事ができるスキルや資格があるので、それを活かしたい	移住先で、これまでの経験を活かした仕事をした	移住先で、これまでの経験に関係なく働ける仕事を見つけた	就業意向有 (左記3項目計)	趣味や余暇を重視したいので、たまに働く程度にしたい	自給自足的な生活をしたいため、働くつもりはない	ボランティア活動や地域づくり活動などをしたいので、働くつもりはない	子育て中・介護中なので、働くつもりはない	リタイア後の生活を楽しみたいので、働くつもりはない	その他	わからない・特に決めていない
沖縄県移住希望者計	500 100.0	55 11.0	66 13.2	114 22.8	235 47.0	103 20.6	16 3.2	7 1.4	1 0.2	85 17.0	1 0.2	52 10.4
男性	250 100.0	28 11.2	32 12.8	54 21.6	114 45.6	56 22.4	8 3.2	6 2.4	1 0.4	38 15.2	0 0.0	27 10.8
女性	250 100.0	27 10.8	34 13.6	60 24.0	121 48.4	47 18.8	8 3.2	1 0.4	0 0.0	47 18.8	1 0.4	25 10.0
20代	48 100.0	5 10.4	3 6.3	19 39.6	27 56.3	10 20.8	2 4.2	1 2.1	0 0.0	1 2.1	0 0.0	7 14.6
30代	115 100.0	18 15.7	19 16.5	32 27.8	69 60.0	23 20.0	1 0.9	1 0.9	0 0.0	8 7.0	0 0.0	13 11.3
40代	116 100.0	15 12.9	20 17.2	22 19.0	57 49.1	27 23.3	2 1.7	0 0.0	0 0.0	14 12.1	0 0.0	16 13.8
50代	116 100.0	12 10.3	19 16.4	28 24.1	59 50.9	25 21.6	5 4.3	3 2.6	0 0.0	15 12.9	0 0.0	9 7.8
60代	105 100.0	5 4.8	5 4.8	13 12.4	23 21.9	18 17.1	6 5.7	2 1.9	1 1.0	47 44.8	1 1.0	7 6.7

出典：沖縄県への移住意向に関する調査/沖縄振興開発金融庫(平成 29 年 3 月)

表-5 移住後に希望する就業形態

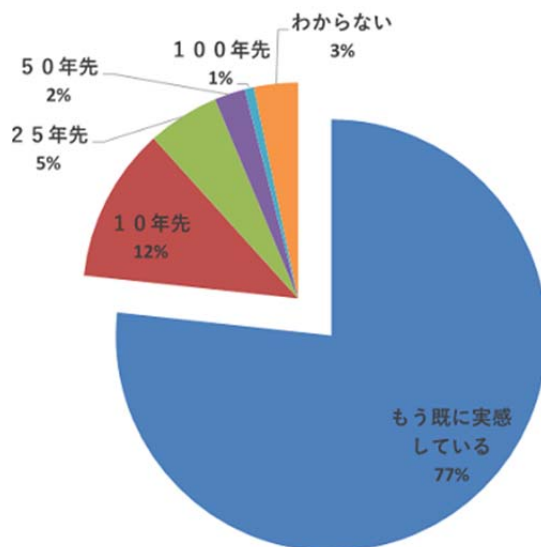
1段目 度数 2段目 横%	TOTAL	自営業(自らが経営者となりたい・起業したい)	正社員として雇用されたい	契約社員として雇用されたい	パート・アルバイトとして雇用されたい	派遣社員として雇用されたい	フリーランスとして働きたい	その他	わからない・特に決めていない
沖縄県移住希望者計	235 100.0	41 17.4	81 34.5	13 5.5	54 23.0	2 0.9	18 7.7	0 0.0	26 11.1
男性	114 100.0	24 21.1	50 43.9	4 3.5	19 16.7	0 0.0	7 6.1	0 0.0	10 8.8
女性	121 100.0	17 14.0	31 25.6	9 7.4	35 28.9	2 1.7	11 9.1	0 0.0	16 13.2
20代	27 100.0	2 7.4	10 37.0	1 3.7	10 37.0	0 0.0	1 3.7	0 0.0	3 11.1
30代	69 100.0	13 18.8	32 46.4	0 0.0	13 18.8	0 0.0	5 7.2	0 0.0	6 8.7
40代	57 100.0	14 24.6	20 35.1	3 5.3	8 14.0	1 1.8	5 8.8	0 0.0	6 10.5
50代	59 100.0	7 11.9	16 27.1	6 10.2	14 23.7	1 1.7	6 10.2	0 0.0	9 15.3
60代	23 100.0	5 21.7	3 13.0	3 13.0	9 39.1	0 0.0	1 4.3	0 0.0	2 8.7

出典：沖縄県への移住意向に関する調査/沖縄振興開発金融庫(平成 29 年 3 月)

(4) 環境に対する意識の傾向

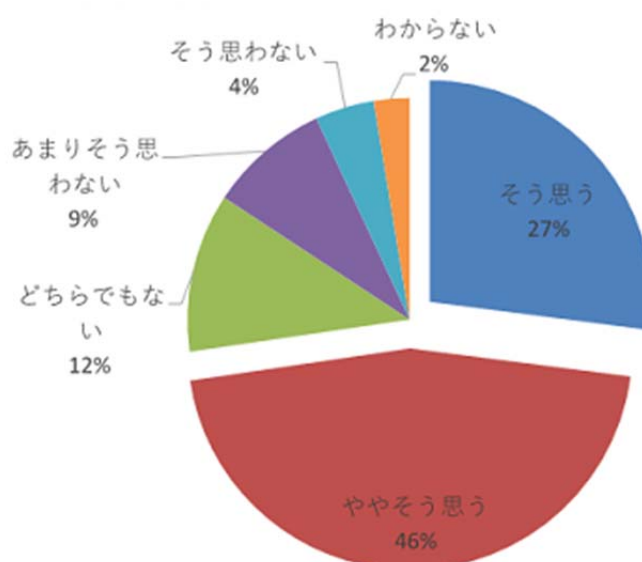
○環境に関する意識

- ・気候変動や温暖化の影響を7割以上の人が既に実感しており、同程度の割合の人が環境改善に向けて自身の生活や習慣を変えた方がいいと感じている。
- ・また、オフィスビル、商業施設、リゾートホテルについて、環境配慮への取組みは当然であると認識が定着している。



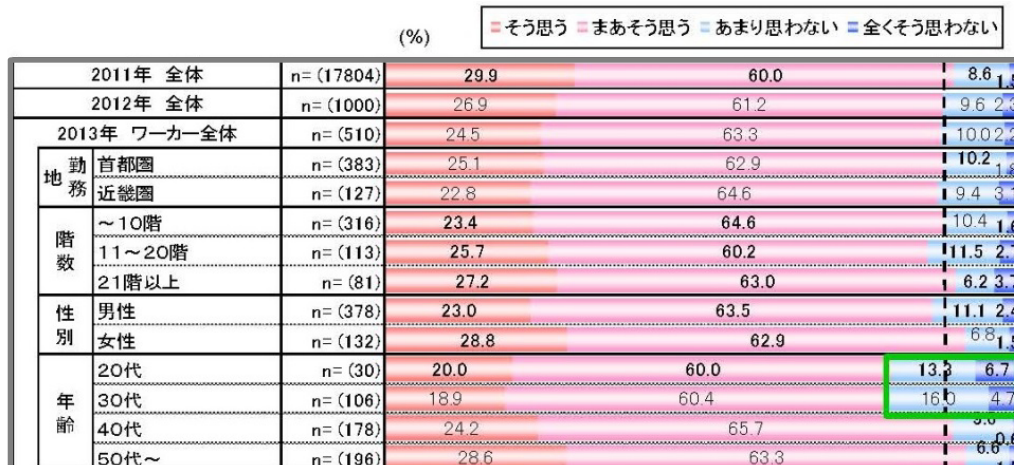
出典: 環境意識に関する意識調査/国立環境研究所(平成28年10月)

図-29 気候変動や温暖化の影響を実感するのはどれくらい先か



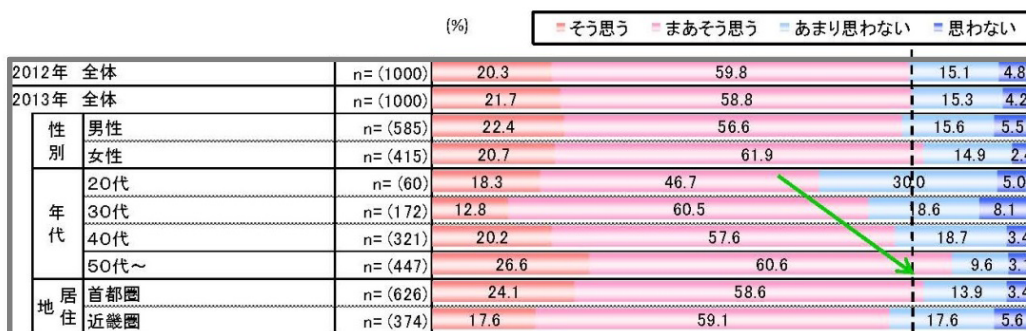
出典: 環境意識に関する意識調査/国立環境研究所(平成28年10月)

図-30 気候変動や温暖化を減らすため自身の生活や習慣を変えるべきか



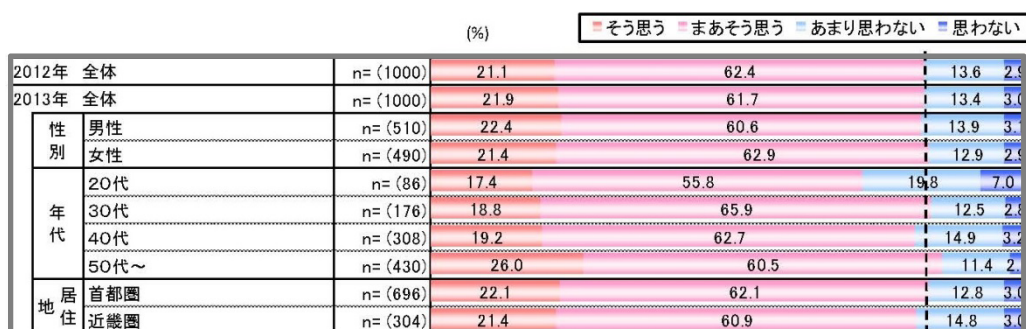
出典: 住宅取得や施設利用における消費者の環境意識調査/東急不動産次世代技術センター(平成26年7月)

図-31 オフィスビルについて、ビルオーナーは社会的責任として「環境配慮」に積極的に取り組むべきか



出典: 住宅取得や施設利用における消費者の環境意識調査/東急不動産次世代技術センター(平成26年7月)

図-32 商業施設について、今時、環境への取組は当たり前か



出典: 住宅取得や施設利用における消費者の環境意識調査/東急不動産次世代技術センター(平成26年7月)

図-33 リゾートホテルについて、今時、環境への取組は当たり前か